

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	急性尿閉により間欠的自己導尿を要した患者における尿閉離脱因子の検討
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) (職名) (氏名) 泌尿器科 医員 杉原直哉
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2035 年 3 月 31 日
対象となる方	2015 年 4 月から 2035 年 3 月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち尿閉によって間欠的自己導尿を開始された患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況、併用薬 等
研究の概要 (目的・方法)	急に尿が出なくなる(急性尿閉)患者さんには、自己導尿を行ってもらったことがあります。多くの患者さんは数か月で自力排尿ができるようになりますが、一部の方は長く自己導尿が必要になります。どのような患者さんが自力で排尿を回復できるのか、これまで詳しくわかっていませんでした。 急性尿閉後に自力で排尿を回復できる患者さんの特徴や、どのくらいの期間で自己導尿をやめられるのかを調べ、今後の診療に役立てることを目的としています。 過去に急性尿閉のため自己導尿を指導された患者さんの診療記録を調べ、どのような特徴の方が排尿を回復できたのかを分析します。カルテ上の情報や、すでに実施された検査の結果を利用するため、新たな検査や費用負担はありません。
個人情報の保護	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直

について	接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。 また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院泌尿器科 杉原直哉 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5356